

貧しい人のために働くシスター・デニス



カンボジアは貧しい国である。国民の八五％が農民と言われるが、農村地帯の多くはまだ電気も水道もない。住んでいる家も、失礼だが小屋に貧しい。

今回、小型バスで各地を訪ねたが、一度も耕うん機を見かけなかった。農耕に使われる水牛もやせている。実際に訪れるのはほとんどがアンコール遺跡で、カンボジアの表玄関とも言えるここでは庶民の貧しい生活に触れることはない。あえて言えば遺跡入り口付近で物を売る

子どもたちの姿ぐらいいである。我々外国人観光客が泊まるホテルは先進国のホテルのような高層ビルではないが、設備は悪くない。朝食のバイキングの内容も欧米のホテルに比べそんなことはない。カンボジアに限らずどの国でも観光ツアーでは庶民の生活に接することはあまりない。今回のスタディ・ツアーでは、貧しい庶民の生活実態に触れることができた。特にシスター・デニスに案内さ

れて訪れた村の図書館ではカンボジアの貧しさを痛感した。オーストラリア人のシスター・デニスはブノンペンにあるイエズス会サービスセンターのスタッフの一員としてカンボジアの貧しい人たちのために働いている。バタンバン友の会の支援のいくつかは彼女を通して続けられている。彼女が案内してくれた村の図書館は「えっ、これが？」という気持ちになった。



村の商店

村の図書館

カンボジアは貧しい国である。国民の八五％が農民と言われるが、農村地帯の多くはまだ電気も水道もない。住んでいる家も、失礼だが小屋に貧しい。

今回、小型バスで各地を訪ねたが、一度も耕うん機を見かけなかった。農耕に使われる水牛もやせている。実際に訪れるのはほとんどがアンコール遺跡で、カンボジアの表玄関とも言えるここでは庶民の貧しい生活に触れることはない。あえて言えば遺跡入り口付近で物を売る

子どもたちの姿ぐらいいである。我々外国人観光客が泊まるホテルは先進国のホテルのような高層ビルではないが、設備は悪くない。朝食のバイキングの内容も欧米のホテルに比べそんなことはない。カンボジアに限らずどの国でも観光ツアーでは庶民の生活に接することはあまりない。今回のスタディ・ツアーでは、貧しい庶民の生活実態に触れることができた。特にシスター・デニスに案内さ

れて訪れた村の図書館ではカンボジアの貧しさを痛感した。オーストラリア人のシスター・デニスはブノンペンにあるイエズス会サービスセンターのスタッフの一員としてカンボジアの貧しい人たちのために働いている。バタンバン友の会の支援のいくつかは彼女を通して続けられている。彼女が案内してくれた村の図書館は「えっ、これが？」という気持ちになった。

めて訪れた時は村人共有の施設など何もなくあった。貧しい農民はその日を生きるのに精いっぱいだ。そこで、日本からの支援で公民館の役目を果たす小屋を作り、その横に常設の図書館を作ったのだ。しかし、日本人の感覚からすれば公民館とか図書館など



サビエル生誕五百年

巡礼の道

175

藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)



村の図書館

新しい図書館は六畳ぐらいの小屋、本は雑誌のようなものが少し並べてあるだけ。訪れた時は幼児がブロックを使って遊んでいた。シスター・デニスがこの村を初めて訪れた時は村人共有の施設など何もなくあった。貧しい農民はその日を生きるのに精いっぱいだ。そこで、日本からの支援で公民館の役目を果たす小屋を作り、その横に常設の図書館を作ったのだ。しかし、日本人の感覚からすれば公民館とか図書館など

と言えるものではない。しかしこの小屋が貧しい農民にどれほどの喜びを与えたことだろうか。シスター・デニスが時間をかけて、わざわざここに案内してくれたのは、物が豊富にあることだけが豊かなのではない、物が貧しくともいろんなことに感謝する気持ちこそが豊かさの大切な一面だと私に問いかけているように思えた。
(元山口放送取締役ラジオ局長)